半田市 ハザードマップ

津波浸水深・震度・液状化

半田市ハザードマップ（津波浸水深・震度・液状化）は、愛知県が調査した東海地震・東南海地震・南海地震等による被害想定から、半田市分を抽出したものです。あらかじめ、ご自宅、学校、仕事場周辺の津波浸水深・最大震度・液状化危険度といった被害想定結果を把握し、災害対策や災害時の行動に役立ててください。

被害想定では、「過去地震最大モデル」と「理論上最大想定モデル」の２種類のモデルで想定しています。

なお、被害想定結果は、平成 26 年 5 月に公表されたものです。

愛知県　東海地震・東南海地震・南海地震等

被害予測

想定			過去地震最大モデル	理論上最大想定モデル
人的被害（冬夕方発災時）	建物倒壊等（うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物）	死者数	約30人	約400人
			（＊人）	（約 30人）
	浸水・津波	死者数	約30人	約200人
	（うち自力脱出困難）		（約10人）	（約100人）
	（うち逃げ遅れ）		（約20人）	（約 70人）
	急傾斜地崩壊等	死者数	（＊人）	（＊人）
	火災	死者数	約30人	約300人
建物（冬夕方発災時）	揺れ	全壊・焼失棟数	約700棟	約9,300棟
	液状化	全壊・焼失棟数	約 10棟	約 20棟
	浸水・津波	全壊・焼失棟数	約 50棟	約 40棟
	急傾斜地崩壊等	全壊・焼失棟数	約 10棟	約 10棟
	火災	全壊・焼失棟数	約700棟	約4,800棟
震度分布面積率	7		0%	45%
	6強		21%	55%
	6弱		79%	0%
	5強以下		0%	0%
液状化危険度面積率	大		20%	22%
	中		11%	11%
	小		2%	0%
	なし		9%	9%
	対象層なし		6%	6%
	計算対象外		52%	52%
ライフライン機能支障（発災1日後）	上水道	断水人口	約 117,000人	愛知県による公表はありません
	都市ガス	復旧対象戸数	約 24,000戸	
	LPガス	機能支障世帯数	約 1,000世帯	
	電力	停電軒数	約 53,000軒	
	固定電話	不通回線数	約17,000回線	
	携帯電話	停波基地局率	61%	
	下水道	機能支障人口	4,200人	
避難者数（冬夕方発災時）	1日後	避難者数	約12,000人	愛知県による公表はありません
	（うち避難所）		（約 7,600人）	
	（うち避難所外）		（約 4,500人）	
	1週間後	避難者数	約25,000人	
	（うち避難所）		（約13,000人）	
	（うち避難所外）		（約11,000人）	
	1ヶ月後	避難者数	約 8,000人	
	（うち避難所）		（約 2,400人）	
	（うち避難所外）		（約 5,600人）	

＊：被害わずか

※端数処理により各項目の合計に一致しない場合がある。

愛知県から公表された津波浸水深の被害想定結果は、強い揺れや地盤の液状化による被害を前提としており、地盤沈下や堤防等の被災状況等で大きく変わります。

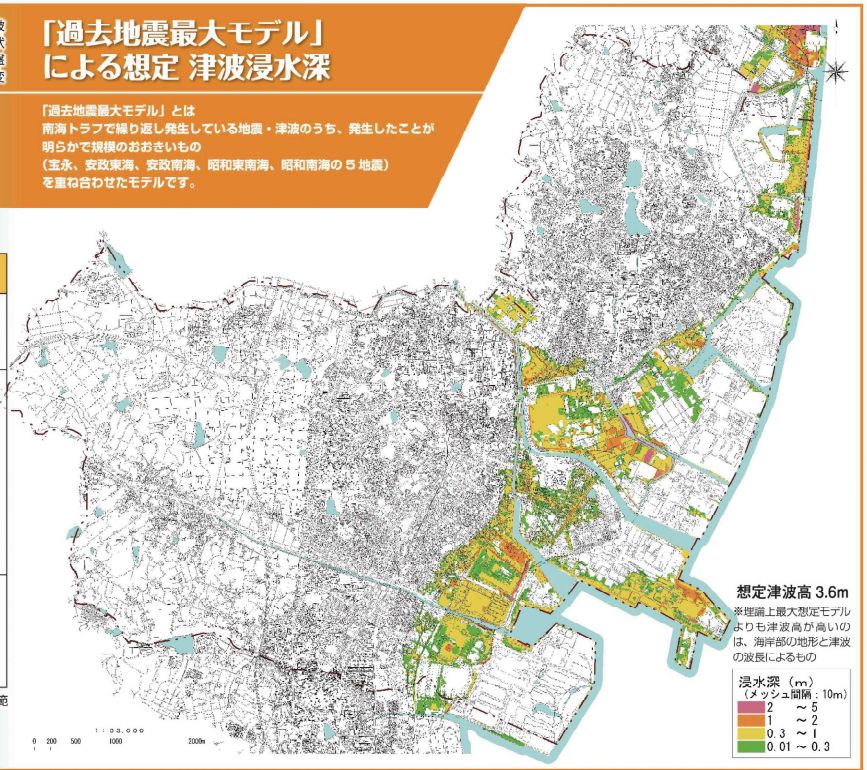
「過去地震最大モデル」による想定 津波浸水深

「過去地震最大モデル」とは
南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模のおおきいもの
（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の５地震）
を重ね合わせたモデルです。

「過去地震最大モデル」の津波浸水に用いた主な条件

初期潮位（満潮位相当）		T.P.+1.0m ※T.P.は東京湾平均海面
堤防条件	盛土構造物（土堰堤）	地震後に堤防の高さが5%沈下。ただし、耐震性を有している箇所および液状化危険度が小さい箇所では、堤防の高さが50%沈下。いずれの場合も構造物を越流したら、破壊。
	コンクリート構造物	震度６弱以上で、地震発生と同時に破壊。

これらの条件により右図のような浸水範囲となります。



想定津波高 3.6m

※理論上最大想定モデルよりも津波高が高いのは、海岸部の地形と津波の波長によるもの

浸水深（m）（メッシュ間隔：10m）
2 ～ 5
1 ～ 2
0.3 ～ 1
0.01 ～ 0.3

家族の連絡先

家族が、はなればなれになったときの集合場所と連絡手段を確認しましょう。家族の連絡先を下の表に記入しておきましょう。

氏名	連絡先	避難する場所	家族の集合場所

家族の通信手段

安否確認の電話は「災害用伝言ダイヤル 171」

地震や津波などの災害が起きると被災地への安否確認の電話が殺到して電話がつながりにくくなることがあります。そんな時は「災害用伝言ダイヤル（171）」を利用しましょう。

災害用伝言ダイヤル 171 の使い方

伝言の登録

ダイヤル 171 の後に
1 ▶ 自宅の電話番号を市外局番からダイヤル

例「○○です。家族は全員無事です。～～○○避難所にいます。」

録音時間 1伝言30秒以内　伝言保存期間 録音してから運用期間終了まで

伝言の再生

ダイヤル 171 の後に
2 ▶ 連絡を取りたい相手の電話番号を市外局番からダイヤル

登録されたメッセージを聞くことができます

利用できる電話

一般電話、公衆電話、INS ネット・ひかり電話（ダイヤル式電話使用時は利用不可）並びに、災害時、NTT が避難場所などに設置する特設公衆電話から利用できます。

半田市からの情報発信

半田市では、市ホームページ、屋外放送（同報無線）、LINE、X（旧 Twitter）、緊急速報メールなどによって、災害時の情報発信を行います。

日頃からのとるべき行動

1. 避難場所、避難ルートを決めておきましょう。いつ津波がきても対応できるように、避難場所の位置といくつかの避難ルートを事前に決めておきましょう。
2. 周辺の建物の高さを確認しておきましょう。避難場所が近くになく、すぐに避難できないというときのために、堅牢な建物の高さを確認しておきましょう。建物は３階以上を目安として避難しましょう。
3. 避難場所、避難ルートの確認をしましょう。避難場所、避難ルートを決めても、いざというときに有効に使えなくては意味がありません。避難場所、避難ルートを決めたら実際に避難ルートを使用して、避難場所へ行ってみましょう。

4. 持っていくものを整理しておきましょう。災害発生時に準備をしていたのでは避難が遅れ、命にかかわる危険性が大きくなります。事前に持っていくものを決めて、整理しておきましょう。

津波が発生したときにとるべき行動

1 常に津波の発生を考えておく

強い揺れや長い揺れを感じたら津波がくると考えてください。感覚的には小さな地震であっても、揺れが長時間続くような場合には、津波が来襲する危険性があります。小さな地震なので津波はこないといった判断は禁物です。

2 とにかく早く逃げる

揺れがおさまりしだい、津波警報や津波注意報の発表を待たずに、とにかく早く、少しでも高い所に避難しましょう。

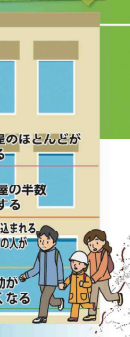
避難所に行くには時間がかかりすぎるという場合は、近くの高台や堅牢な高い建物に逃げましょう。原則、車は使わずに逃げてください。強い揺れにより、堤防が損壊した場合、津波の到達前に海水の流入が始まります。

3 安全が確認されるまで

安全な場所へ避難が完了したら、完全に津波の危険性がなくなったことが確認できるまでその場所を離れないでください。

気象庁発表の正しい情報で確認しましょう。テレビ（ワンセグ放送）やラジオなどで最新の情報を入手してください。

津波浸水深マップの見方



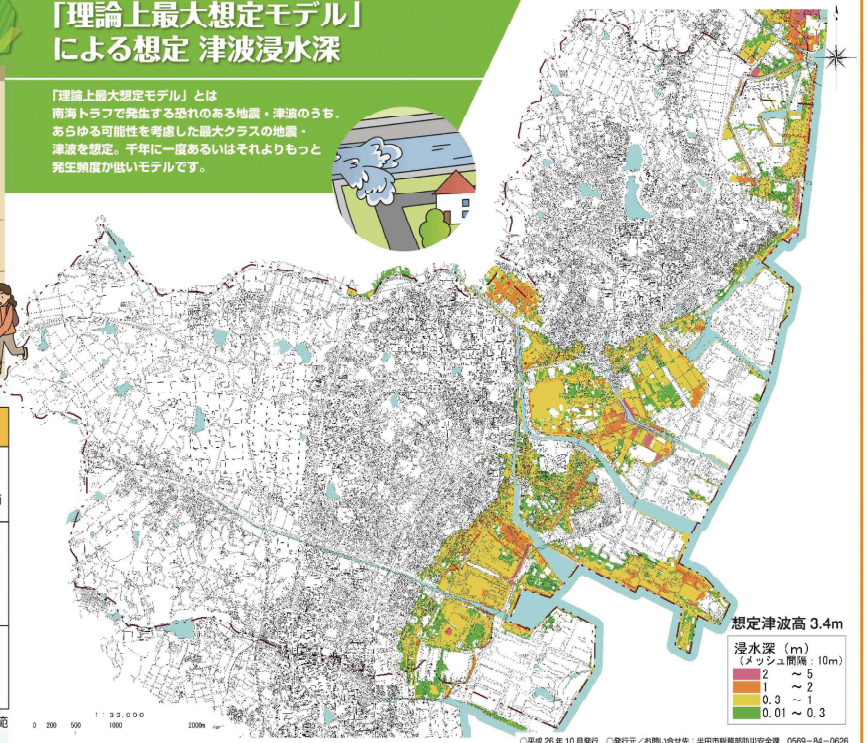
「理論上最大想定モデル」による想定 津波浸水深

「理論上最大想定モデル」とは
南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定。千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いモデルです。

「理論上最大想定モデル」の津波浸水に用いた主な条件

初期潮位（満潮位相当）		T.P.+1.0m ※T.P.は東京湾平均海面
堤防条件	盛土構造物（土堰堤）	地震後に堤防の高さが75%沈下。構造物を越流したら、破壊。
	コンクリート構造物	震度６弱以上で、地震発生と同時に破壊。

これらの条件により右図のような浸水範囲となります。



想定津波高 3.4m

浸水深（m）（メッシュ間隔：10m）
2 ～ 5
1 ～ 2
0.3 ～ 1
0.01 ～ 0.3

○平成 26 年 10 月発行　○発行元／お問い合せ先：半田市総務部防災安全課　0569－84－0626